

早期体験学習

責任者・コーディネーター	病態薬理学講座分子細胞薬理学分野 奈良場 博昭 教授 生物薬学講座機能生化学分野 中西 真弓 教授 臨床薬学講座地域医療薬学分野 高橋 寛 教授		
担当講座・学科(分野)	臨床薬学講座薬学教育学分野、薬科学講座構造生物薬学分野、生物薬学講座機能生化学分野、臨床薬学講座地域医療薬学分野、薬科学講座天然物化学分野、生物薬学講座生体防御学分野、病態病理学講座臨床医化学分野、医療薬科学講座創剤学分野、病態薬理学講座薬剤治療学分野、臨床薬学講座臨床薬剤学分野、臨床薬学講座情報薬科学分野、医療薬科学講座薬物代謝動態学分野、薬科学講座創薬有機化学分野、薬科学講座分析化学分野、医療薬科学講座衛生化学分野、高度救命救急センター、超高磁場 MRI 診断病態研究部門		
対象学年	1	区分・時間数	実習 33 時間
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

・学修方針（講義概要等）

早期体験学習では、薬学の学習に対するモチベーションを向上させるため、薬剤師や薬学関連職種が活躍する現場を実体験することを目的とします。医療人として必要な倫理観を身につけるとともに豊かな人間性を涵養し、6年間の学びの礎を構築します。この科目は「薬学入門」と密接に関わっており、知識面での学びを同科目から補完し、それをグループワークや体験学習をとおして発展させていきます。

・教育成果（アウトカム）

医療関連施設の見学、種々の体験学習を行い、健康の維持と疾病を治癒することの大切さを実感し、医療コミュニケーション、疾病解析と予防、治療薬を開発するための基本的知識、技能、態度と倫理観を身につけることによって、医療人になることを自覚できるようになる。（ディプロマ・ポリシー：1～9）

・到達目標（SBO）

1. 医療倫理や臨床研究の規範に基づき、医療における患者の基本的権利を守ることを学び、患者の価値観や人間性に配慮することの重要性を認識することができる。
2. 患者・患者家族・生活者の視点から、求められる医療人像やチーム医療の在り方について討議することにより、医療の重要性を認識することができる。（☆）
3. 救急救命法、心肺蘇生法、応急手当法の基礎を学び、模擬体験学習することによって、生命と向き合う医療人となることを自覚できる。
4. 大学病院、薬局、各種施設などの医療現場を見学・体験学習（不自由体験など）し、患者さんの気持ち、医療チームを支える一員としての使命などについて認識することができる。
5. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議することにより、医薬品の重要性を認識することができる。（態度）
6. 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議することにより、薬剤師の果たすべき役割の重要性を認識することができる。（態度）
7. 地域包括ケアシステムの概要を学び、患者・患者家族・生活者の視点から、医療や介護のニーズを討議することで、医療と介護の連携や多職種連携の重要性を認識することができる。（態度）

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
10/3	火	1・2	分子細胞薬理学分野 地域医療薬学分野 機能生化学分野	奈良場 博昭教授 高橋 寛教授 中西 真弓教授	君はどんな態度・気持ちで 早期体験学習に望むべきか (スモールグループディス カッションと発表) 1. 医療倫理や臨床研究の規 範に基づき、医療におけ る患者の基本的権利を守 ることを学び、患者の価 値観や人間性に配慮する ことの重要性を認識する ことができる。 2. 患者・患者家族・生活者 の視点から、求められる 医療人像やチーム医療の 在り方について討議する ことにより、医療の重要 性を認識することができる。 事前学修：早期体験学習の 手引きを読んでおくこと。 事後学修：配付資料を確認 し、学んだことを整理して おくこと。
		3・4	超高磁場 MRI 診断・病態研究部門 高度救命救急センター 機能生化学分野 創剤学分野	山下 典生准教授 小守林 靖一講師 關谷 瑞樹准教授 杉山 育美講師	7 テスラ見学・ドクヘリ見学 1. 最新の医療施設や医療の 現場を知ることにより、 医療の現実と将来につい て考えることができる。 事前学修：早期体験学習の 手引きを読んでおくこと。 事後学修：配付資料を確認 し、学んだことを整理して おくこと。
10/4	水	1~4	分子細胞薬理学分野 地域医療薬学分野 創薬有機化学分野 創薬有機化学分野 創薬有機化学分野 分子細胞薬理学分野 創剤学分野 衛生化学分野 衛生化学分野 薬物代謝動態学分野 薬剤治療学分野 薬剤治療学分野	奈良場 博昭教授 高橋 寛教授 河野 富一教授 辻原 哲也准教授 稲垣 祥助教 高橋 巖特任講師 杉山 育美講師 杉山 晶規教授 米澤 穂波助教 寺島 潤講師 三部 篤教授 手塚 優助教	10/4、10/10、10/11 期間 で実施。 1日：午前にケアセンター 南昌見学 2日間：2時間程度2か所の 保険薬局見学 希望場所で研究室見学(1か 所以上) 1. 薬局や介護施設などの医 療現場を見学・体験学習 し、患者さんの気持ち、 医療チームを支える一員 としての使命などについ て認識することができる。

					<p>事前学修：早期体験学習の手引きを読んでおくこと。 事後学修：配付資料を確認し、学んだことを整理しておくこと。</p>
10/5	木	1・2	<p>地域医療薬学分野 分子細胞薬理学分野 機能生化学分野</p>	<p>高橋 寛 教授 奈良場 博昭教授 中西 真弓教授</p>	<p>地域包括ケアについて グループワーク 1.地域包括ケアシステムの概要を学び、患者・患者家族・生活者の視点から、医療や介護のニーズを討議することで、医療と介護の連携や多職種連携の重要性を認識することができる。 事前学修：早期体験学習の手引きを読んでおくこと。 事後学修：配付資料を確認し、学んだことを整理しておくこと。</p>
		3・4	<p>分子細胞薬理学分野 臨床薬理学分野 構造生物薬理学分野 生体防御学分野 薬剤治療学分野</p>	<p>奈良場 博昭教授 朝賀 純一准教授 野中 孝昌教授 大橋 綾子教授 三部 篤 教授</p>	<p>病院薬剤部見学、病院見学 1. 病院薬剤部および附属病院などの医療現場を見学・体験学習し、患者さんの気持ち、医療チームを支える一員としての使命などについて認識することができる。 事前学修：早期体験学習の手引きを読んでおくこと。 事後学修：配付資料を確認し、学んだことを整理しておくこと。</p>
10/6	金	1~4	<p>分子細胞薬理学分野 分子細胞薬理学分野 機能生化学分野 分析化学分野 衛生化学分野 臨床医化学分野</p>	<p>照井 克俊非常勤講師 奈良場 博昭教授 中西 真弓教授 藤本 雅之准教授 米澤 穂波助教 大橋 一晶准教授</p>	<p>不自由体験 心肺蘇生法講習(3・4時) 1. 救急救命法、心肺蘇生法、応急手当法の基礎を学び、患者やの不自由を模擬体験学習することによって、生命と向き合う医療人を自覚する。 事前学修：早期体験学習の手引きを読んでおくこと。 事後学修：配付資料を確認し、学んだことを整理しておくこと。</p>

10/10	火	1~4	機能生化学分野 生体防御学分野 薬学教育学分野 生体防御学分野 衛生化学分野 衛生化学分野 薬剤治療学分野 薬剤治療学分野 分子細胞薬理学分野	中西 真弓教授 大橋 綾子教授 白石 博久特任教授 錦織 健児助教 杉山 晶規教授 米澤 穂波助教 三部 篤教授 手塚 優助教 高橋 巖特任講師	10/5、10/11、10/12 期間 で実施。 1日：午前にケアセンター 南昌見学 2日間：2時間程度 2か所の 保険薬局見学 希望場所で研究室見学（1か 所以上）
10/11	水	1~4	地域医療薬学分野 薬剤治療学分野 薬剤治療学分野 生体防御学分野 薬学教育学分野 生体防御学分野 分子細胞薬理学分野 創剤学分野 創薬有機化学分野 創薬有機化学分野 創薬有機化学分野	高橋 寛教授 三部 篤教授 手塚 優助教 大橋 綾子教授 白石 博久特任教授 錦織 健児助教 高橋 巖特任講師 杉山 育美講師 河野 富一教授 辻原 哲也准教授 稲垣 祥助教	1. 薬局や介護施設などの医 療現場を見学・体験学習 し、患者さんの気持ち、 医療チームを支える一員 としての使命などについ て認識することができる。 事前学修：早期体験学習の 手引きを読んでおくこと。 事後学修：配付資料を確認 し、学んだことを整理して おくこと。
10/12	木	1~4	地域医療薬学分野 創薬有機化学分野 構造生物薬学分野 臨床薬剤学分野 天然物化学分野 薬剤治療学分野 臨床薬剤学分野 創薬有機化学分野 情報薬科学分野	松浦 誠特任教授 辻原 哲也准教授 阪本 泰光教授 朝賀 純一准教授 浅野 孝助教 手塚 優助教 高橋 宏彰助教 稲垣 祥助教 氏家 悠貴助教	模擬体験 1. 医薬品の研究や薬剤師の 実務を模擬体験学習する ことによって、生命と向 き合う医療人を自覚する ことができる。 事前学修：早期体験学習の 手引きを読んでおくこと。 事後学修：配付資料を確認 し、学んだことを整理して おくこと。
10/13	金	1~4	機能生化学分野 地域医療薬学分野 分子細胞薬理学分野	中西 真弓教授 高橋 寛教授 奈良場 博昭教授	早期体験学習で学んだこ と、考えたこと（スモール グループディスカッション と発表） 1. 医療倫理や臨床研究の規 範に基づき、医療におけ る患者の基本的権利を守 ることを学び、患者の価 値観や人間性に配慮する ことの重要性を認識する ことができる。 2. 患者・患者家族・生活者 の視点から、求められる 医療人像やチーム医療の 在り方について討議する ことにより、医療の重要 性を認識することができる。

					事前学修：早期体験学習の手引きを読んでおくこと。 事後学修：配付資料を確認し、学んだことを整理しておくこと。
--	--	--	--	--	---

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	早期体験学習の手引き（早期体験学習ガイドンスで配布）			2022
参	救命救急フライトドクター	岩貞るみこ	講談社	2011
参	人工呼吸・心臓マッサージができなくても AED（自動体外除細動器）を、使ってください	輿水健治	保健同人社	2006
参	これならわかる<スッキリ図解>障害者総合支援法	遠山真世ほか	翔泳社	2014
参	青森ドクターヘリ 劇的救命日記	今明秀	毎日新聞社	2014
参	介助が困難な人への介護技術	滝波順子、田中義行	中央法規出版	2014

・成績評価方法

体験学習のため、全項目の参加とプロダクトの提出をもって100点とする。ただし、参加態度、遅刻、提出期限の延滞等により減点する。

・特記事項・その他

体験型学習のため自ら進んで積極的に参加することが望ましい。事前・事後学修には、それぞれ30分程度を要する。提出物に関しては、必要に応じてフィードバックを行う。